

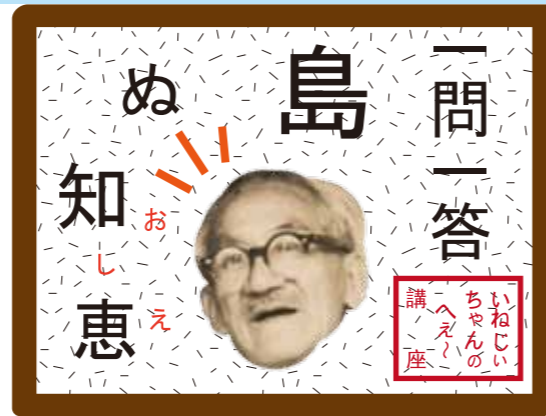
# NEWS LETTER

奄美 シマの 自然と文化を

世界へ!

- 1 p シロアゴガエル
- 2 p 国立公園と国立公園など
- 3 p エコツーリズムなど
- 4 p へえ～講座など

発行：環境省奄美群島国立公園管理事務所



1 「あー、よかったー！」  
 はいはい、  
 何で怒ってんの...  
 父ちゃんが  
 けんかした...  
 いうから...  
 ハハハ、  
 うちの、このあいだ、  
 いいお話聞いたから  
 教えてあげようね♪



今回も出演  
りっちゃん

2 むかし、むかし  
 宇検村の枝手久島に  
 大きな工場をつくる  
 はなしがあつた。ち。  
 そしたら  
 作るのに賛成の人と  
 自然が壊れるから  
 反対ちいう人で、  
 大げんかになって、  
 10年もずっと続いたちよー  
 ※注 枝手久島争



3

3 その本を  
 作ってから  
 30年。  
 昔けんかしたつたみんなが  
 集まって、これまでのいじ、  
 これからの村のいじ、  
 仲良く話したつたわけ。

4 シマをよくしたいち  
 思う気持ちは一緒。  
 自然があればど生きてもいいける。  
 けんかしても仲直りが大事♪  
 りっちゃんもお父さんと  
 仲直りしてね。



2023年12月開催 日本復帰70周年記念  
宇検村イベント「湯湾岳と焼内湾が育む  
私たちの暮らしよ 永遠に」

【枝手久島争】1970年代。宇検村の枝手久島周辺に東亜燃料工業が  
 巨大な製油所の建設を計画したことで起きた住民争。賛成派と反  
 対派で村が真っ二つに对立。激しい争は約10年も続いた。結果  
 的に計画は断念され、同社が村に寄付した3億円の活用策として、  
 村は(財)宇検村振興育英財団を設立。学業支援の他、村の歴史を  
 次世代に伝えるべく、4冊の本を出版した。

「この本は枝手久島の  
 お土産だと思ってる」  
 歴史を残す本。村にとつ  
 てマイナスな出来事をブ  
 ラスにするため、未来の  
 子供達のために活用する  
 ことにした。  
 元山三郎元村長



「この本は枝手久島の  
 地域の良さに気づいて  
 その時代ごとに築くこと  
 が大切だ。岡野隆宏(環境  
 省釧路自然環境事務所所長)」

## コラム アクティブ・レンジャー日記 公開中!



アマミノクロウサギ  
 の糞塊調査の様子  
 日記はこちらから

「アクティブ・レンジャー」とは、  
 環境省職員である自然保護官(レン  
 ジャー)の補佐役として、国立公園  
 等のパトロール、調査、利用者指導、  
 自然解説などの業務を担う職員です。  
 現在、奄美群島国立公園では4名の  
 アクティブレンジャーが活躍してお  
 り、日々の業務をホームページ上に  
 日記形式で紹介しています。ぜひ、  
 ご覧ください!

## 編集後記

■「この本は枝手久島の  
 お土産だと思ってる」  
 歴史を残す本。村にとつ  
 てマイナスな出来事をブ  
 ラスにするため、未来の  
 子供達のために活用する  
 ことにした。  
 元山三郎元村長

■「この本は枝手久島の  
 地域の良さに気づいて  
 その時代ごとに築くこと  
 が大切だ。岡野隆宏(環境  
 省釧路自然環境事務所所長)」

連絡先：環境省奄美群島国立公園管理事務所  
 電話：0997-55-8620 編集：奄美自然学校

# 奄美群島で 生息域拡大!?

シロアゴガエルは東南アジアを原産とするカエルで、在来のカエル類と餌資源などを  
 巡って競合する等、生態系への悪影響が懸念されています。これまで奄美群島内では  
 2013年から与論島のみに入りが確認されていましたが、2023年5月に徳之島への侵入  
 が確認され、徳之島では現在までに5000匹以上の個体が発見・駆除されています。これ  
 らは沖縄などから貨物等に紛れて侵入したと考えられ、  
 今後周辺の島に拡散する可能性が高まっています。

卵

★卵塊はクリーム色の泡状で  
 直径約10cmの大きさ

- ★繁殖力が非常に強く、比較的乾燥にも強い
- ★タライなどに溜めたわずかな水の中でも繁殖する
- ★アマミアオガエルの卵塊\*と似ている

- ★シロアゴガエルの繁殖期：4月～10月ごろ
- ★アマミアオガエルの繁殖期：12月～5月ごろ

オタマジャクシ

見分けの  
ポイント!

★鼻先の  
 白い斑点が  
 特徴だが斑点が  
 ない個体もあり

成体

- ★夜行性
- ★茶褐色

★体長 5～7cm

ギィ、グィ  
 特徴的な鳴き声

日本の侵略的外来種  
 ワースト100に選定

# この顔、この声、この卵 ピンときたら奄美野生生物保護センターまで

\*特定外来生物は、飼育・栽培・保管・運搬・輸入・販売・譲渡・放出などが法律で禁止されています。

## 「国定公園」と「国立公園」 何が違うの？

改めて知る！

奄美群島は1974年に「国定公園」に指定され、今年で50年が経過しました。「国立公園」と「国定公園」、どのような違いがあるのか、みなさんをご存知ですか？

【国立公園】日本を代表する傑出した自然の風景地として、環境大臣が指定し、国が直接管理する。

【国定公園】国立公園に準じる風景地として、環境大臣が指定し、都道府県が管理する。

どちらも、保護と利用の増進を図ることにより、国民が自然に親しむ機会を作り、生物多様性の保全に寄与することを目的として、自然公園法に基づいて指定されます。

奄美群島の国定公園時代は、リアス海岸やサンゴ礁などの景観が評価され、主に海岸部が公園区域として指定されていました。近年、豊かな生態系に対する関心が高まってきたことから、見直しが行われた結果、多くの固有種が生息・生育する国内最大の亜熱帯照葉樹林の生態系を中心として、河川、干潟・マングローブ、サンゴ礁といった多様な生態系が複合的に一体となった景観と、人と自然の関わりを示す文化景観が評価され、2017年に国立公園に指定されました。

奄美群島国立公園は、全国34箇所ある国立公園のうち、34番目に指定された日本で一番若い国立公園です。しかし、国定公園時代を含めるとその歴史は長く、半世紀にわたって守られてきた奄美群島の自然を後世に残すことができるよう、これからも自然の保護と適正な利用の増進のための様々な制度や仕組みづくりを進めていきます。



深く探る！

## 奄美群島国立公園自然環境アトラス誕生！



奄美群島の自然や文化の魅力をより多くの方に知っていただくために、『奄美群島国立公園自然環境アトラス』を作成し、Web上で公開しています。

## アトラスって何？



アトラスとは、複数の地図を一定の方針で編集した地図集のことです。この『奄美群島国立公園自然環境アトラス』では、奄美群島の生きものや人の暮らしの基盤となる自然環境の情報、土地利用や保護地域制度などの人の営みの情報、人と自然の関わりによる「環境文化」の情報などについて、その空間的な広がりを地図に整理しています。

奄美群島の豊かな自然や文化を地図から眺めて、その面白さを再発見するとともに、奄美群島の自然や文化に関する教育・学習や普及啓発等に是非ご活用ください。アトラスの冊子は、奄美野生生物保護センター、奄美大島世界遺産センターで閲覧いただけます。また、奄美群島内の小中高校、図書館・図書室、奄美博物館、AiAi広場、三太郎の里、りゅうがく館などにもお配りしています。(左上のQRコードよりPDFをダウンロードできます。)



私たちが暮らす奄美群島には、多様な生態系が一体となった自然景観と、自然と人との関わりを示す文化景観が数多く残されています。地域の暮らしや営みと自然環境保全のバランス維持を目指すために、奄美群島の島々は国立公園に指定されています。

## 「守る→利用する→伝える=エコツーリズム」って？

最近、「エコツーリズム」という言葉を耳にする機会が多くなりました。森の散策やナイトツアーなどを想像する方も多いと思いますが、そもそもエコツーリズムとは一体何でしょうか？

【エコツーリズム】地域の資源を守りながら持続的に利用し、学びを深め、観光利用と地域振興をつなげる活動のこと。

【エコツアーガイド】エコツーリズムの案内人。奄美群島の自然・文化についての知識を持っているだけでなく、利用者に安全で質の高い体験を提供しつつ、地域の環境保全に関する情報やノウハウを伝える（環境教育）と共に、自らも環境保全活動を行う責任も持つガイドのこと。

【奄美群島エコツアーガイド認定制度】奄美群島では、自然・文化に関する講習や救命講習の受講などの一定

の要件を満たしたガイドを認定する「奄美群島エコツアーガイド認定制度」を運用しています。利用者は「認定エコツアーガイド」を選ぶことにより、安心・安全なツアーでより深く奄美群島の魅力を体験することができるといわけです。



奄美群島エコツアーガイド認定制度についてはこちら



島に住む私たちも認定ガイドを使ってみよう！新しい体験や発見ができるかもしれないよ！

体感できる！

## 奄美大島宇検村でのモデルコース

環境省では、国立公園の魅力を最大限に体験できる体験プログラム作りを行っています。令和5年度は、奄美大島南部でのモデルコースを作るために、瀬戸内町・宇検村・大和村・観光関係者と連携し4回の検討会を開催。宇検村での2泊3日のモニターツアーに取り組みました。目指したのは、「シマ（集落）の環境文化」をテーマに世界自然遺産（国立公園）の深い森を感じつつ、古来のシマの人たちが大事にしてきた自然と文化を体験できること。



■1日目：電動自転車 e-bike でクゴウの滝周辺や湯湾岳展望台を巡り、サトウキビ畑と湯湾岳の水を活かした黒糖焼酎工場を見学、やけうちの宿でシマ唄を聴きながら夕食。

■2日目：湯湾集落から宇検集落まで「ケンムン」にまつわる場所や物語の案内を受け、枝手久島に渡り散策。夜はシマの食材でBBQをしながら宇検集落の方々と語り交流。

■3日目：おにぎり弁当を持って峰田山展望台から宇検村を眺め、この旅を振り返る。



このコースのポイントは、教えられるのではなく、旅行者がシマの暮らしの中に深く入ることで、風に触れ、土に触れ、人に触れ、「シマの環境文化」を五感で感じることができるといえる心旅であること。まさに宇検村観光振興計画のコンセプト「見えないモノを感じる観光プロジェクト」となりました。早く皆さんにも体験してもらえようと思います。